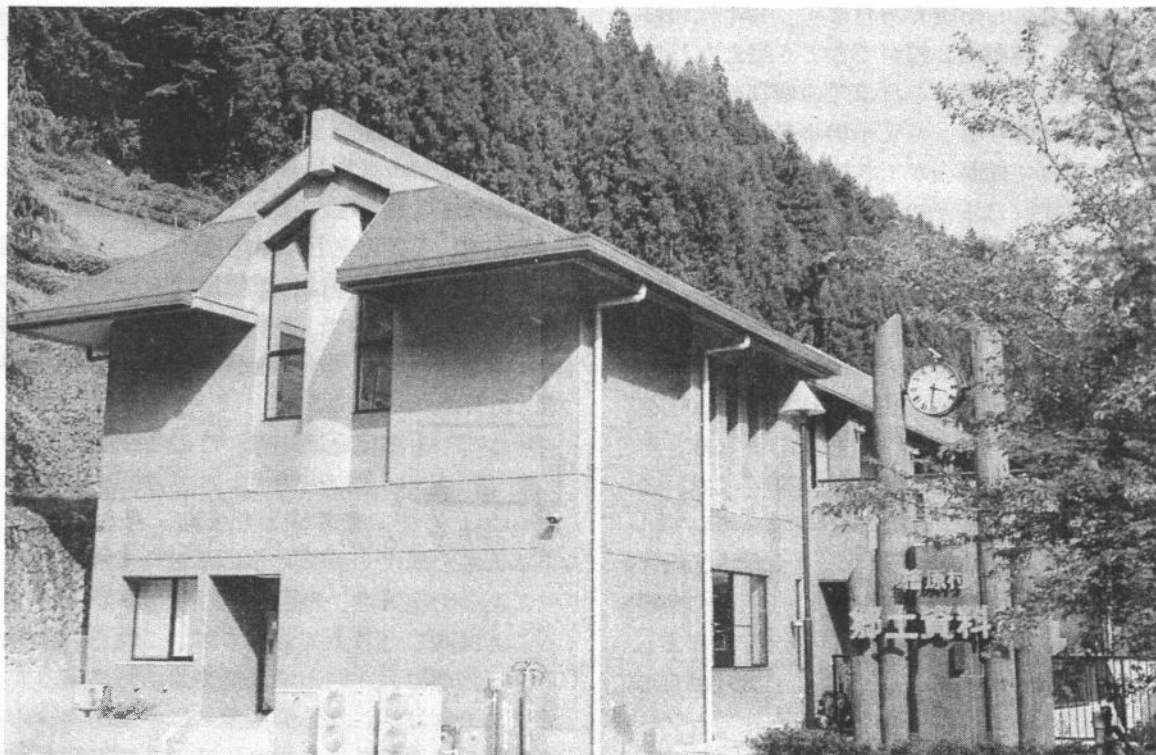
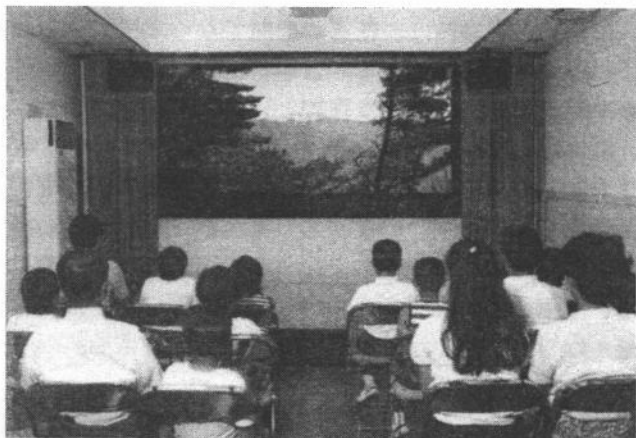


檜原村郷土資料館の開館にあたって



昭和63年5月、先人が残してくれた貴重な文化財の保存と共に、これを展示し、観光面にも生かしながら村の活性化を計り、21世紀の展望に立って文化的生活向上に寄与すると共に、都内小学校3年生の社会科副読本（村の生活）の活用にも役立つよう考慮して開設しました。



研修室

❖ 1階は研修室／6台映写によるマルチスライドを常設し、四季にわたる檜原村のうつろいと人々の暮らしを詩情豊かに見ていただけます。

❖ 2階は展示室／展示室Ⅰは産業と観光、展示室Ⅱは考古・歴史など実物、資料を展示してあります。

〔利用案内〕

所在地 東京都西多摩郡檜原村3221番地

電話 事務所 (0425)98-0880

1階休憩所 (0425)98-0903

開館時間 4月～11月／午前9時30分～午後4時

12月～3月／午前10時～午後4時

休館日 火曜日（祝日の場合はその翌日）

年末年始（12月28日～1月3日）

その他教育委員会が定めた日

入館料 無料

交通機関 JR五日市線武蔵五日市駅下車

バス：藤倉行・小岩行で「共励橋」下車

思い出することなど

元府中市立郷土館々長

朝倉雅彦

「ミュージアム多摩」が第10号を迎えられるとお伺いし、心からお喜びいたします。館を去って3年になりますが、この会の創設に携わった1人として、あれこれ述べさせていただきます。

思い出 **揺籃の時代** 多摩地区の市町村博物館の曙**すこと**は、昭和40年代のはじめで、東村山、八王子、府中の3館が誕生した頃であります。40年代の終りに町田、青梅、調布の3館ができて6館となりました。館も増えてきたので、これまでの個別の交流から組織的な活動を行おうと、八王子の小泉館長さんが熱心に働きかけられて館長会ができました。昭和49年8月16日であります。八王子の郷土資料館の隣の市民会館で、小泉館長さんの心尽しのビールで乾杯したのがつい昨日のこのように蘇ってまいります。

メンバーは明日の博物館の新世界を夢見る男たちで、若わかしく熱気がありました。その時は会則等はつくり、**「契り」**を結んだという方が適切でした。この**「契り」**の中で、いくつかの申し合せをしました。その一つは、「会は、隔月に各館持廻りで開く」で、これは着実に実施されました。夢のある楽しい集いでした。また、他に「会は、館長だけでなく全職員の会とする」がありました。その年の暮には、八王子の料亭**「ときわ」**で6館の館長と職員の忘年会が行われました。会場には大看板が掲げられ、まさに志気軒昂たるものがありました。

この館長会が発足する少し前の昭和49年5月24日、職員の皆さんによる「多摩公立博物館職員連絡会」ができて研究会が開かれました。この会は、館長会の発足により発展的に解散になりましたが、当時の熱気を物語るものであります。

建設の時代 館長会は館数も増え順調に成長し、昭和53年7月15日に、発展的に『東京都三多摩公立博物館協議会（略称三博協）』となりました。この会になって会則も決り、機関紙が発行されることになりました。

この頃、この会へのご支援をと多摩の教育長会、日本博物館協会、東京都博物館協会へも伺いました。

昭和40年のはじめの頃は3館・職員数15名、館長会発足時は6館28名、三博協結成時に9館52名、そして62年度の名簿では19館134名となっており、喜ばしい歩みであります。

一方、昭和49年の館長会のメンバー6名のうち、八王子の小泉館長さんはスペインの航空機事故で、調布の狩野館長さんと町田の千沢館長さんは、それぞれ病でご永眠されました。あの頃、2月に一度元気にお逢いしていたのに、感無量なものがあります。青梅の稲葉館長さんと東村山の小山館長さんと私の3名は健在

であり、できるだけお逢いしたいものです。

多摩地区の博物館 多摩地区は広域であります。自然、歴史、文化の面からまとまりのよい地域といえます。図書館は40年代の東京都の振興策が効を奏して図書館のないまちはなくなり、全国でも最も活発な図書館活動の地域となっております。しかも多摩の図書館長会の力によって、昭和54・63年に全国図書館大会が多摩地区で開かれております。博物館がこうなりますのも時間の問題と思っております。

三博協と都議会 三博協が結成されるのと前後して、東京都ではマイタウン構想が策定され、また自ら江戸東京博物館を建設されることになりました。

そこで、三博協としましては、「マイタウン構想の推進の拠点となるのは、博物館であります。図書館の振興策と同じように、多摩地区博物館の振興策をお願いします。」と都及び都議会・教育委員会へ何年か陳情したりしたものでした。

想ってい **る** **こと** **施策と博物館** この会が設立された頃、「地方の時代」とさげばれ、間もなく先述のマイタウン構想がたてられ、そして今日では、「ふるさと創生」が唱えられております。

これらの施策は、表現は異なりますが言わんとされることは同じと考えております。これらの施策がたてられるたびに、「いよいよ博物館の時代来る」と喜びます。それは、これらの施策には、物的施策の前に心の施策が必要であります。その心の施策が博物館にはかならないと思うからであります。

また数年前、教育の問題が審議されました。ここで大きくとりあげられましたのが個性の尊重、創造性の涵養、生涯教育でありました。素直に考えまして、これらに応えることが博物館・図書館であると思いますが、博物館・図書館の前を素通りしていることに疑問が残ります。

博物館・図書館は、任意の機関でなく学校に劣らない必須の機関であります。このことの一般的で抜本的な理解が、今後の大きな課題といえましょう。

21世紀と博物館 間もなく21世紀を迎えます。これまでをふりかえり、21世紀を展望してさまざまな夢がありましょう。一つの夢があります。「21世紀は、博物館と図書館の世紀に」というものであります。それは、全国の津つ浦うら、博物館と図書館のないまちはなくなり、これらはそれぞれ内容があり、さらには互に手を結んだ世界であります。

「21世紀の博物館は、三博協から」と本気で夢見ております。三博協の限りないご発展を切望いたします。

[教育普及事業紹介]

米作りの体験学習について

府中市郷土の森

学芸員 小野 一之

府中の生活文化の縮図を表現する郷土の森では、敷地内に水田を造成し、子どもたちを中心とした米作りの体験学習を実施している。本年度はその初年度で、現在収穫をすべて終了し、できあがった米を用いたもちつき大会と七草粥をすませたところである。本稿はその1年間の一部を省みたものである。

郷土の森での米作りの目的は、次の2点に要約できる。1つは、農業からほとんど遠ざかっている子どもたちの農業理解のためであり、もう1つは、郷土の森における農村の景観復原のためである。前者が博物館常設展示の農具と関係し、後者は屋外に移築復原した茅葺農家に関して、それぞれの理解と活用に有益であろう。また、近代化以前の農業に少しでも近づけていくことが、以上の目的を実現するためにふさわしいだろう。具体的にいえば、田植えや稲刈りばかりでなく、春の田起しや夏の草取りをできるだけやろうということであり、コンバインではなくノコギリ鎌を、ハー



こめっこクラブ 全員集合!

ベスタだけでなく千歯扱きもということであり、春にはレンゲが秋にはヒガンバナが咲き、かかし・かけぼし・いなむらぼっちで、深まる秋の経過を知らせるといことである。さらに、目的を社会化させる背景に、

東京都三多摩公立博物館協議会名簿

館名	代表者	開館年月日	〒	所在地	電話
東村山市立郷土館	林 嵩	昭40.4.1	189	東村山市諏訪1-2-7	0423-91-5353
八王子市郷土資料館	池田 秀夫	昭42.4.1	192	八王子市上野町70	0426-22-8939
府中市郷土の森	関根 恒男	昭43.4.5	183	府中市南町6-32	0423-68-7921
町田市立博物館	田邊三郎助	昭48.11.3	194	町田市本町田3562	0427-26-1531
青梅市郷土博物館	玉川 力	昭49.5.1	198	青梅市駒木町1-684	0428-23-6859
調布市郷土博物館	下田 譲二	昭49.11.24	182	調布市小島町3-26-2	0424-81-7656
瑞穂町郷土資料館	小峰 勤作	昭52.11.3	190-12	西多摩郡瑞穂町石畑1962	0425-57-5614
奥多摩郷土資料館	古屋 康利	昭53.4.16	198-03	西多摩郡奥多摩町原5	04288-6-2731
福生市郷土資料室	原島 良吉	昭55.4.2	197	福生市熊川850-1	0425-53-3111
武蔵村山市立歴史民俗資料館	関根 勲	昭56.11.3	190-12	武蔵村山市中藤6343	0425-60-6620
五日市町立五日市町郷土館	馬場 清	昭56.11.5	190-01	西多摩郡五日市町五日市920-1	0425-96-4069
羽村町郷土博物館	羽村五三男	昭60.4.6	190-11	西多摩郡羽村町羽741	0425-58-2561
清瀬市郷土博物館	小谷 威	昭60.11.1	204	清瀬市上清戸2-6-41	0424-93-8585
立川市歴史民俗資料館	河村 重雄	昭60.12.1	190	立川市富士見町3-34-1	0425-25-0860
檜原村郷土資料館	吉野 達郎	昭63.5.26	190-02	西多摩郡檜原村3221	0425-98-0880
日野市ふるさと博物館	生野 清	平元.11.予定	191	日野市神明4-16-1	0425-83-5100
東京農工大学工学部附属繊維博物館	北村 愛夫	昭19.10	184	小金井市中町2-24-16	0423-81-4221
東京都高尾自然科学博物館	鹿山 実	昭42.4.1	193	八王子市高尾町2436	0426-61-0305
東京都武蔵野郷土館	鈴木 和夫	昭29.1.14	184	小金井市桜町3-7-4	0423-81-1336
東京都井の頭自然文化園	小杉 雄三	昭17.5.17	180	武蔵野市御殿山1-17-6	0422-46-1100

※「府中市郷土の森」の開館年月日は昭62.4.4であるが、表中には前身である府中市立郷土館の開館年月日を記載する。

今大きく揺れている日本の農業問題がある。連日のニュースを賑わした農作物輸入自由化をめぐる日米交渉が一応の決着を見せたのは、今年のちょうど田植えの季節であった。「牛肉・オレンジの次はコメ」との観は鮮明になった。どのような立場に立つにしても、農業に対する理解が前提である。

当方での準備はまず、実施前の1年間、近くの農家へ通い見学や手伝いをする事により始めた。これは字面で追っていた農作業の知識がいかに空虚であったかを知るのに充分であったが、ここで得た経験も翌年のいざ実施という時に全く頼りにならないことも合わせて知った。さて、5アール(0.5反)ほどある郷土の森の水田は、畦で3つに区分している。子どもたちと耕していくにはやっとなのであるが、家族4人の食事に最低限必要だといわれる水田面積の3分の1に過ぎない。指導協力を近くの農家の方に依頼し、月に2、3度は来てもらうが、あとは当方で管理していく。こうして5月から翌年3月まで、月1、2回の土曜午後の集合、米作りのほかに、季節の植物観察を折りまぜる計画で、小学4年生から中学生までを募集した。間もなく26名が集まりこれを「こめっこクラブ」と称した。メンバー証を携帯すれば、博物館内を自由とし、集合日以外の水田の見回り、展示資料の学習を保証した。

年間の当初計画の予定と1月までの実施状況は、別表のとおりである。

稲刈り以後の日程が大きくずれたのは、気候と稲の生育状況による。農業は予定が立てられないという認識も学習のひとつであろう。土・日にしか予定が組めないことも支障であるが、同様の問題を近年の兼業農家は抱えている。それにしても子どもたちの集合日は少なく、実際の作業量が多い。田起し、草取り、水の管理の大部分は子どもたちの目に見えないところでやらざるを得ない。苗は育ったものをもらい受けた。マンノウによる田起しはできたが、代かきはテラーの



稲刈り

進出を許してしまった。千歯扱きで脱穀しては年が明けてしまうので機械に頼らざるを得ない。(もっとも、こき棒・千歯・足踏式回転脱穀機・ハーベスタを並べてフル回転させた時は、機械化の過程を一堂に見るようで壮観であった。)唐臼や搗臼の使用は将来に託しつつ、粃摺りは農家に、精米は米屋さんをお願いしてしまった。日数と機械の問題が大きな課題である。

そろそろ実りが気になり始めた頃、冷害と長雨による全国的な不作のニュースが伝えられた。稲が無残に倒れた水田を市内でも多く見かけた。幸か不幸か郷土の森の稲は初めてにしてはなかなかの実りであった。これは子どもたちが特にならばったからではなく、まして当方の努力の成果ではない。偶然に近いことを知っている。子どもたちは何を感じたであろう。確かにみんな喜んでいて、生き生きとした姿を見ることもできた。自分の手で植えた稲が育っていく過程を目のあたりに見たであろうか。さまざまな作業の地道な苦勞が理解できたであろうか。月に1、2度「遊び」に来るだけでお米がとれる——と、もし子どもたちが感じたとしたら、最初の目的は達せられていない。試行錯誤は当分続きそうである。

集合予定日	実施日	内容
① 5/21(土)	5/21(土)	全体の説明、田起し
② 6/25(土)	6/25(土), 26(日)	田植え
③ 7/16(土)	7/16(土)	田の草取り
④ 8/20(土)	8/20(土)	"
⑤ 9/10(土)	9/10(土)	かかし・すずめおどし作り、七草の種まき
⑥ 10/8(土)	10/15(土), 22(土), 29(土), 30(日)	稲刈り、掛干し
⑦ 10/29(土)	11/19(土)	脱穀
⑧ 11/26(土)	12/3(土)	落ち葉集め、植物観察
⑨ 12/25(日)	12/25(日)	もちつき
⑩ 1/7(土)	1/7(土)	七草粥、収穫の品評
⑪ 2/18(土)	2/18(土)(予定)	梅の花の観察
⑫ 3/18(土)	3/18(土)(")	復習と反省

〔昭和63年度展示活動報告〕

館名	展示会名	期間	内容
町立五日市町郷土館	縄文人の生活展	8. 12～8. 13	町内で発掘された資料を中心に縄文時代の生活をみる移動展——町内増戸会館にて夏休み学習相談室の開設にあわせて行う。
	五日市町の大火と消防	10. 20～11. 27	古文書や古記録に出てくる大火の記録や絵図、明治時代から現在に至る消防用具の移り変わりなどについて展示。
青梅市郷土博物館	青梅そのゆかりの文化財展	4. 23～11. 3	多摩地区有数の文化財の宝庫である青梅。その青梅にゆかりの文化財を展示・紹介する。
	収蔵品展（衣・食・住の民具）	9. 1～3. 31	郷土博物館に収蔵する民俗資料のうち、衣・食・住をテーマにした展示を行なう。
	三田氏とその時代展	3月上旬から～	青梅を中心とした多摩川上流域を支配した中世の豪族三田氏の活躍した時代を展示・紹介する。
奥多摩郷土資料館	収蔵品展（2階）	1. 13～1. 31	小河内の山村生活用具（国指定）を中心に展示。小展示替：小正月飾りの門棒、まゆ玉飾り。
	小河内の郷土芸能（1階特別展）	63年度（年間）	水没した小河内地区に伝承されていた鹿島踊、車人形、獅子舞、神楽を展示。
	写真で綴る「小河内の半世紀」（1階特別展）	8. 24～10. 31	小河内ダム起工50年を記念し、水没前の集落、生活に係わるもの、ダム建設の様子、竣工から現在までの主な出来事を中心に、この50年の小河内の変化を写真で展示（約120点）。
清瀬市郷土博物館（ギャラリー）	特別展・「日本画に描かれた自然」	4. 29～5. 15	現代を代表する日本画家15人の作品を集め、自然を題材とした抒情性豊かな日本画を展示。
	特別展・「鬚嘔・虹の世界」	9. 23～10. 10	市内在住で、虹の世界を確立し、国際的に活躍している鬚嘔氏の近作53点を展示。
	企画展・清瀬美術家展	11. 5～11. 20	清瀬美術家懇話会会員作家26人による彫刻・絵画の展示。
	写真展・清瀬の写真1000日行		昭和61年1月1日から1000日間、清瀬の町並み・四季折々の雑木林・年中行事など市内に繰り広げられる様々な生活を収めた写真の展示。
（歴史展示室）	一名主を通して知る江戸時代の清瀬—	11. 1～10. 31	今回の展示は、清瀬の江戸時代の様子を、名主の書き残した記録から探ってみたものです。
（民俗展示室）	生活用具展 夏のくらし・冬のくらし		生活用具を夏のくらし・冬のくらしという観点でとらえ、1年間の生活サイクルを表わす。
立川市歴史民俗資料館	ミニ展示会		
	「立川 100年のあゆみ」	7. 19～7. 31	街並の移り変わりについて、今昔写真約20点を展示。
	「立川の野草」	8. 2～8. 14	春から夏にかけて、市内で見られる野草約20種を写真で展示（撮影、当館研究員鈴木功氏）。
	「立川駅 100年のあゆみ」	8. 16～8. 31	開設100年を迎える立川駅の移り変わりについて、絵画や写真など約20点を展示。
	マユダマ展示	1. 14～1. 29	小正月の年中行事であるマユダマを玄関ホールに展示。
調布市郷土博物館	「調布の歴史」	4. 1～5. 1	原始・古代から近代までの調布の歩みをたどり、郷土に生きた人々のくらしの様子を紹介する。
	テーマ展		
	「調布の考古資料展」～鉄が語る	5. 14～6. 12	市内における近年の発掘調査で出土した農具・工具・武具などの鉄製品約300点を展示し、同時に昭和62年に国の史跡に指定された下布田遺跡を紹介。
	調布の古代～姉妹都市3周年記念特別展	7. 5～9. 4	長野県木島平村との姉妹都市3周年を記念して、木島平の自然や文化財、村の生業やくらしに関する資料約200点を展示。
	「第2のふるさと・木島平への招待」		
	テーマ展「絵馬」～祈りとかたち～	10. 1～11. 22	市内在住の郷土玩具のコレクターの収集品を中心に約200点の小絵馬を展示し、絵馬に托された庶民の願いや祈りについて考える。
	「調布の歴史」	12. 1～3. 31	原始・古代から近代までの調布の歩みをたどり、

東京都高尾自然科学博物館	「東京都の地形」	常設	郷土に生きた人々のくらしを紹介する。 東京都の地形をわかりやすくするため、従来の平面を立体地形模型とし、パネルに取り付け、地形区分の解説を行なった。
	「東京都の気候・高尾山の気候」	常設	新たに得られた知見をもとに、東京都の気候区分および、都心と高尾山の気候の差異、高尾山の小気候についてをまとめてパネルにし、展示更新を行なった。
	「高尾山の森林と植物」	常設	高尾山に見られる種々の林を、最近の調査資料によって林相図にするとともに、高尾山に見られる植物を解説したパネルを製作、展示更新を行なった。
	「スズメバチの仲間」	常設	スズメバチやアシナガバチ類について、巣やハチの標本を用いて展示解説する。
東京都武蔵野郷土館	企画展「あかり」	11. 1～12. 4	行燈、ランプ、ガス燈など約70点を展示し、現代の私達の生活では使われなくなった燈火具を通して、「あかり」についての人々のさまざまな工夫や歴史について展示、紹介した。
東京農工大学工学部 附属繊維博物館	ミニ特別展 ひも結び文化展	4. 2～4. 28	篠崎 順氏（ひも結び工芸家）の作品約40点の展示。
	おりけん5人展	5. 11～5. 20	サークル「織物研究会」のマネージャー5人の作品展。約20点
	特別展 コットンの世界	5. 11～5. 15	コットンにかかわる資料（タオル、ゆかた、藍染めなど）を一堂に展示、なかでもコットンに関する郵便切手（池田コレクション）は随一。
	ミニ特別展 郵便によるコットンテキスタイル展	6. 1～9. 30	コットン郵便切手、ハガキ及びスタンプ等（池田コレクション）の展示。
	テキスタイルデザイン展	10. 12～10. 29	テキスタイルを学習する学生のデザイン習作を展示。約100点
	創作和紙工芸展	11. 7～11. 26	山下早苗氏（小平市在住）の和紙を使った工芸作品。約30点
	特別展 第3回科学技術展	11. 10～11. 13	本学の教授スタッフの最先端の研究成果を一堂に集め、実物や実験データを展示。本年度で3年目であるが、企業等の評価もよく約7000名入館。約150点
	ミニ特別展 明治期のカーペットデザイン展	12. 2～2. 12	我が国明治期に導入した後藤毛織（東京荏原）で作られたカーペット意匠紙、工業的なプロセス画（美術的価値もある）。約30点
	組ひも展	2. 12～3. 31	組ひも機（製紐機）で作られたいろいろな組ひもの展示。約50点
	八王子市郷土資料館	特別展 「縫う～針の周辺」	7. 5～8. 21
	特別展「川口川流域の歴史と文化」	10. 16～11. 27	八王子工業高等学校から、市内川口川流域の考古資料が移管されたのをきっかけとして、中世以前の川口川流域を対象として開催した。明神社北遺跡出土品、国分寺瓦、儀海関係資料、大船若経など展示。
羽村町郷土博物館	企画展「さまざまな民具」	5. 1～12. 21	今までに寄贈していただいた民具のうち農耕用具を中心に展示。
	企画展「野鳥展」	4. 1～年度中	昨年度も行った「野鳥展」の26種のはく製を展示替えして、ブッポウソウ、アオバズク、シマフクロウ等のはく製を展示。
	特別展「多摩川の自	10. 15～年度中	多摩川に生息する魚類のパネル写真や漁撈用具（

東村山市立郷土館	然と生活」		伝統漁法用具)を一堂に集め展示し、川の自然と人々の生活のかかわりを浮彫りにした。
	企画展「写真でたどる羽村堰の変遷」	3. 5～3. 26	明治から昭和までの堰の写真と、江戸市中の給水に使用された大きな木樋等を展示。
	農業のくらし展	4～	当地は古く農業を中心に発展した町で、生業の中で欠かすことのできない道具類を展示、土と汗とで生活した民具、儀礼用具等を陳列。
	こどもの遊び展	4～	昔から伝わっていたわらべ歌を地方色豊かに表現した遊び道具、単純素朴な道具からなつかしい“手づくりの味”をしのばせる。
府中市郷土の森	特別展 東村山の民間信仰	4～	人間生活の様々な習わし、風俗という形をとって、民間信仰が古くから伝承されてきており、そうした信仰の伝承は、生活共同体の中の儀礼など観念的な様相をもって、地域の中で個人や集団の健康や安全、豊作、成功などへの願いと多岐にわたっています。今回は、イエの神、さまざまな講、奉納、祈願、俗信等にかかる信仰についての特別展を行なった。
	常設展 郷土の歴史を知る	12～	来館者に心地良い環境と学習しやすい場を提供するため内部改装工事を施し、この契機に全体的な展示替を行なった。 主な展示内容 1階－考古資料を中心として、先土器時代末から縄文、中世の板碑などを展示。 2階－民俗資料として、江戸時代の寺子屋から明治・大正・昭和にわたる教科書類や、地元で使用した農耕、養蚕、製茶、信仰生活などの史料を展示。
	特別展「白垂紀展」	3. 20～5. 8	郷土の森開設1周年記念特別展として、前年度より継続して開催。
	企画展「収蔵品展」	7. 20～8. 31	歴史・考古・民俗・自然・教育など最近の寄贈資料を中心に約120点を展示紹介した。
福生市郷土資料室	特別展「馬」	9. 23～10. 30	府中は馬と係りの深いところである。馬と人との古くからの係りを“歴史を駆けた馬”“祈りの馬”のテーマで、歴史と民俗行事の面から展示構成した。
	「刀剣展」	11. 3～11. 6	市民芸術文化祭参加展示会。刀剣武具等を展示。
	企画展「梅あらかると展パートII」	2. 19～3. 12	第2回郷土の森梅まっりのイベントの一環として天神様人形、梅写真、錦絵など梅をモチーフにした資料で展示構成した。
	特別展「府中の民話 絵本原画展」	3. 19～4. 9	絵本「府中むかしばなし」全3冊の刊行を記念して、画家二俣英五郎氏の絵本作品の原画を展示紹介する。
町田市立博物館	特別展 「化石展」	7. 22～9. 16	秋川流域産及びボリビア産の化石を中心に約100点を展示。古生代や中世代の、化石生物が生きていた時代の様子や各化石の産出地等をパネル解説した。
	特別展 「ポタニカルアート展」	9. 21～10. 9	市内に生息する野草の中、夏に開花するもの20種のポタニカルアートを展示。それらの植生やその他生態をパネル解説した。
	特別企画展 「多摩の日記」	10. 15～11. 14	多摩地域に残る主な日記の中、19世紀に書き留められたものを中心に29種、約200点を展示。一部内容をパネル解説した。
	常設展 「正月・小正月の モノツクリ」	11. 16～2. 27	正月・小正月に飾られるミキノクチ・アポヘボなどの民俗資料約200点を展示。ミキノクチについては多摩地域だけでなく他県のものも展示した。
町田市立博物館	忠生遺跡展(前期)	4. 19～5. 8	昭和62年に発掘されたばかりの「忠生遺跡」の出土品を展示、土器をはじめ、珠状耳飾りを再加工したペンダントも出品。
	江戸時代の町田 島崎旦良 －小山町に住んだ	4. 19～5. 8	町田における画家の先駆者でいわゆる島崎旦良筆「十六羅漢図」の修理を記念してその画業を紹介。

瑞穂町郷土資料館	幕末の絵師— 忠生遺跡展（後期）	5. 17～6. 19	田河水泡氏が寄贈された江戸、明治、大正期の滑稽絵（戯画、風刺画、漫画等）を紹介。
	日本の滑稽絵～田河水泡氏寄贈コレクションを中心に～	5. 17～6. 19	
	多摩の古代中世—多摩川流域とその周辺—	6. 28～8. 7	多摩の古代中世の歴史を多摩川流域の出土品によって辿る。奈良時代～室町時代の瓦、陶磁器、鏡、経筒などを展示。
	チェコガラスの輝き ポヘミアン・グラス—18世紀～20世紀— [同時展示] 中国乾隆ガラス	8. 16～10. 23	18世紀から現在にいたるまでのポヘミアン・グラス（チェコスロバキア）を展示。カット、グラヴィール、エナメル、彩、イオン交換着彩など、その技法は多い。
	町田市制施行30周年記念展 町田の仏像	11. 1～12. 4	昭和61年、62年に調査した町田市仏像調査の成果を市制30周年記念として披露。奈良時代から江戸時代の約50件の仏像を展示。
	瑞穂町産業祭	8. 13～8. 14	町内殿ヶ谷地区の山車（安政2年入間川村の甲田近江源高寿製作）展示。高欄を屋根の上に取り付けた点が特徴。屋外展示。
	瑞穂町文化祭	前年度～10. 31	瑞穂の祭りというテーマで、各地区の山車、神輿の大型写真パネル（1体実物）屋内資料館常設会場に展示。高根地区の神楽面、殿ヶ谷、石畑地区のヒョットコ面他多数展示。
武蔵村山市立歴史民俗資料館	瑞穂町文化展	11. 1～10. 31	テーマ、むかしのくらし。郷土資料館保管の主として民具を中心に常設会場に展示。石臼での粉ひきは常時実演。手廻り蓄音器によるレコード鑑賞も随時実施。
	常時展示「武蔵村山 その自然・その歴史・その民俗」	4. 1～3. 31	武蔵村山市の自然、歴史、民俗についてその概要を展示し、来館者のより深い学習の契機となるよう努めている。
	特別展示「武蔵村山市の原始・古代」	7. 24～9. 25	武蔵村山市に存在する遺跡を中心にその出土品等を展示、公開し、埋蔵文化財保護の重要性の理解と文化財全般に対する保護意識の高揚に努めた。
	収蔵品展示「昆虫・押し花」	8. 7～9. 11	館収蔵の自然資料のうち、押し花及び植物写真20点と昆虫標本35点を展示、公開し、自然保護意識の高揚に努めた。
	作品展示「親子でつくった縄文土器」		体験教室「親子縄文土器づくり」の様子と製作した縄文土器22点を展示、公開し、資料館の教育普及活動の紹介を図った。
※期間の欄の至月のうち1・2・3は、それぞれ平成元年の1月・2月・3月を示す。			

編集後記

昭和から平成へ——いろいろな意味で新時代の東雲といえましょう。

『ミュージアム多摩』も区切りの10号から新たな編集体制で行うこととなりました。次号担当の方々、よろしく願いいたします。新加入の檜原村郷土資料館と日野市ふるさと博物館のご発展を祈念いたします。（よ）

発行：東京都三多摩公立博物館協議会

〒182 調布市小島町3-26-2

調布市郷土博物館内

☎0424-81-7656

編集委員：小山末雄（東村山市） 横尾友一（府中市）

佐藤 広（八王子市） 川松康人（町田市）

印刷：多摩総合プリント社